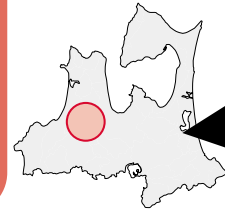


青森県の

市町村情報

五所川原市



概況：津軽平野のほぼ中央に位置する五所川原地区、そして金木地区と十三湖を抱える市浦地区から構成されている。冬は地吹雪が有名で、地域住民の生活に影響があるが、地吹雪体験ツアーは人気を博している。

名所・名産：立佞武多の館、津軽鉄道、太宰治記念館「斜陽館」、芦野公園、道の駅十三湖高原、赤～いりんご、干し餅、十三湖のヤマトしじみ、津軽金山焼

五所川原市 ミニデータ

平成17年3月に
新五所川原市が誕生。
米・りんごの農業の他、畜産
や十三湖のしじみ漁業が盛んである。

人口 56,021人
(男 25,762人、女 30,259人)
世帯数 25,547世帯
H29年7月現在

▲平成29年
新作立佞武多
「纏(まとい)」
制作者：
鶴谷 昭法 氏



五所川原発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。
今回は『企業組合でる・そーれ』をご紹介します。
代表の澁谷尚子さんにお話を伺いました。



▲五所川原駅前のコミュニティカフェ「でる・そーれ」で働く皆さん。写真中央が代表の澁谷さん。

「食」で人と人をつなぐ

でる・そーれは人と人を「食」を通して結び、地域を元気にすることを目指しています。

平成20年に青森県の支援事業がきっかけで現団体の母体である「つながる絆パーティー」が誕生。年齢も職業も異なる女性3人が、生産者と消費者を結ぶ場としてコミュニティカフェを立ち上げました。カフェでは津鉄汁や青森シャモロツクとまとシチューなど、特産品を活用したメニューの他、ストープ列車石炭クッキー(商標登録商品)、中まで赤いりんごシリーズのジュースやジャムなど、お土産品の開発やパッケージデザインに至るまで、女性目線のアイデアを取り入れています。

子育てが一段落して今後の人生を考えていたタイミングで活動を

スタートした澁谷さん。「地域の皆さんの期待に応えたいという想いが、やりがいにつながっています。不安もあったが手探りの中でもやれました」と話します。現在、働く女性スタッフは子育て中の人も多く、学校行事で休みたい、短時間だけ働きたいなど、希望シフト制を取り入れることで多様な働き方を実践しています。

「太陽のように」(デル・ソーレ) 明るく、お客様を迎えたい

カフェは津軽鉄道サポーターズクラブの活動拠点にもなっており、津軽鉄道を利用する常連の観光客も多く訪れます。以前、鉄道ファンのリクエストに応じてイベントを開催したこともあるとか。地域のイベント出店に声をかけてもらえることも増え、徐々に活動が認知されてきました。そして、人のつながりを実感しています。

今後の展望としては、引き続き女性の多様な働き方を実践すること、特産品を活用した開発商品の全国販売を掲げています。また、絆の強い地域は何かやろうとすればうまくいくというソーシャル・キャピタルの醸成を目指しています。でる・そーれが地域コミュニティの拠点となり、地域活性化の一翼を担う場として、県内外から訪れる人を温かく迎え入れてくれることでしょう。

私が男女共同参画を担当しています

五所川原市企画課
主幹 石田 智恵 さん



今年度から平成33年度までの5年間「私らしく、あなたらしく、共に喜びと責任を分かち合える男女共同参画を目指して」を目標に、第4次五所川原市男女共同参画計画がスタートしました。10月には男女共同参画講演会の開催を予定。地域でのワーク・ライフ・バランス実現に向け、イクボスの手法とその実例を学び、理解と実践の促進を図ります。五所川原市では、審議会や各種協議会における女性の割合が27年度で19・2%、28年度は22・1%と徐々に増加しているものの横ばい状態。今後、目標の3割達成を目指します。

また、今年度はあおりウィメンズアカデミーが五所川原市で開催され、多くの女性に受講していただくので、地域のリーダーとして活躍してもらいたいです。この他、年に2回発行している男女共同参画情報紙「さんかく」では旬の話題を取り上げ、わかりやすく、読みやすい紙面づくりを心がけています。

「企業組合でる・そーれ」は、地域食材の推進、地域交流の活性化に加え、新たに、地域限定旅行業者として、地域の観光資源を元にした旅行商品や体験プログラムを提供しており、今後の発展と活躍に期待します。

(取材：吉町 友美)